

2007年度 卒業論文講評

2008年2月 小関 隆志

伊原拓哉 「公園マネジメント」

これまで、「公園マネジメント」という言葉は、日本ではあまりなじみがなかったかもしれません。「公園管理」なら分かりやすいでしょう。公園内の植栽の手入れや清掃、安全管理、受付業務など… 誰もが安全で楽しく過ごせるように公園を整備するという意味で「公園管理」という言葉は使われてきたのではないかと思います。

ただ、「管理」でなく「マネジメント」となると、単なる公園の整備にとどまらない響きをもっています。現在の公園をそのまま維持すればよいというのではなく、いかにして集客するか、いかに収入を増やし費用を減らすか、公園スタッフの人材育成をどうするか、といったマーケティングや経営戦略の要素が入ってきます。

行政改革の流れの中で、主に税金で運営している国営公園にも経営の効率化を含めた事業評価の圧力が及んできており、国営公園にマネジメントの発想が今こそ求められていると言えましょう。

伊原さんはこうした現代的な課題に着目し、「公園マネジメント」を論文のテーマに選びました。以前から、自宅近くにある武蔵丘陵森林公園によく通い、公園に愛着をもっていたそうです。こうした原体験がもとになって、公園やまちづくりの問題に関心を持つようになり、この論文を書き上げました。

国営公園に関するデータを詳しく調べたり、海外の優れた事例を紹介するなど、伊原さんの努力の跡は随所にみられます。なかでも、第4章「現状と分析から出される理想のマネジメント」では、財政問題、集客力、管理、運営の4つのポイントから多岐にわたる独自のマネジメント論を展開していて、この論文の中でも優れた点だと思います。